

第1学年 音楽科学習指導案

- 1 題材名 音の重なり方や構成上の特徴を生かして、創作表現を工夫しよう（2時間）
教材名 表現（創作）「リズムゲーム」「リズムアンサンブル」「リズムチャレンジ」

2 題材について

＜学習指導要領との関わり＞

A表現（3）創作 ア 創作表現にかかわる知識や技能を得たり生かしたりしながら、創作表現を創意工夫すること。
イ(イ) 音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構造上の特徴
ウ 創意工夫を生かした表現で音楽をつくるために必要な課題や条件に沿った音の選択や組み合わせなどの技能を身に付けている。

〔共通事項〕（1）ア リズム、強弱、構成、拍

・思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：リズム、構成

イ 取り扱う音符、休符、記号や用語：f、p、cresc.、decresc.

（1）題材観

本題材では、読譜や記譜の能力の基礎となる音符や休符の理解の定着を図り、さらに音楽の構成について考えさせたい。これは音楽科の学習、特に楽器の演奏や歌唱において必要な能力である。小学校での既習内容を生かしながら拍やまとまりのあるリズム、音の重なりが生み出す面白さを感じ取りながら様々な試行錯誤を繰り返し、思いや意図をもって音楽を組み立てていく面白さに気付かせたいと考えている。また、今回は手拍子のみを使って演奏することで、創作の中でも特に構成に注目して取り組ませていきたい。

（2）指導観

＜教材について＞

本題材の「リズムゲーム」では、既定のリズムから選び、個人で演奏することからリズム打ちの土台をつくり、「リズムアンサンブル」では、リズムゲームでつくった土台をもとに3～4人でそれぞれのリズムのよさが生かされるように組み合わせ、他者と合奏すること（合わせる）の喜びを感じる。次の「リズムチャレンジ」では、前段階が達成できた班に限られるが、よりとっておきのアンサンブルを目指して、強弱や速度に変化を加え、3つの段階に沿って音を重ねていく喜びを味わう。この学習を通して、ペアやグループで重ね合わせて演奏する難しさと楽しさ、面白さに気づかせたい。また、小学校からの知識の定着と応用を図りたい。

＜研究の視点との関わり＞

【視点1】

②既習を生かして学びを深める授業づくり

小学校の時の創作の授業では、リコーダーで吹くメロディーに伴奏をつけたり、リズム打ちを個人で行ったりしてきた。そのため、本題材では個人で考えたリズムを単に組み合わせでアンサンブルするだけでなく、その構成についても考えて音楽を組み立てることで、協働的に音楽を奏でる楽しさや面白さを味わうことができると考える。

○モデルプランとの関わりについて

生徒は小学校3年生の学習で、反復と変化を使ってまとまりのあるリズムをつくる活動に取り組み、音楽が反復することの心地よさや変化することの面白さなど、その効果やよさを感じ取ってきた。続いて、5年生の学習では、打楽器の音色の組合せやリズムの重ね方を工夫し、3年生で学習した反復や変化、さらに、掛け合い（呼びかけと応答）などの音楽の仕組みを用いて、音楽の縦と横の関係を意識しながらリズムアンサンブルをつくる学習に取り組んできた。そして、今回、中学1年生の本題材では、自分でつくったリズムを友達がつくったリズムと重ねる面白さを感じ取らせたり、その工夫に伴って変化する曲想も感じ取らせたりし

ていく。

【視点2】

②個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

協働的な活動を通して、友達がつくったリズムのよさやおもしろさを知ることができれば、「さらにこうしたい。」という新たな思いや意図をもつことができると考えた。グループで知識を伝え合ったり、意見を出し合ったりしながら構成を工夫し、「とっておき」と思えるアンサンブルをつくらせたい。

【視点3】評価の在り方

本単元では一部にギガタブを使用しながら、学習を進めていく。構成という点に着目するために、自分や班のメンバーがつくったアンサンブルを動画に収め、客観的に聴き比べ、よい点を活用していく手立てとしていきたいと考えた。また、学習後に見ながら評価することで、授業中の見取りやワークシートと合わせて評価ができると考えた。

○ワークシートの活用と評価（思考・判断・表現）

本題材では、アンサンブルの構成について個で考える場面と班で考える場面を明確に分け、それぞれワークシートに記入する。個で考えた案を班での構成の際、どのように生かしているのか、を見取るようにしていきたい。また、個で考えた案の映像を聴き比べる際には、数字を使った5段階評価とし、友達の工夫と比較することで班での構成に繋げたり、個の考えのよさを生かしたグループのアンサンブルをつくったりすることが期待できる。

3 題材の目標

- 音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴について理解するとともに、創意工夫を生かした表現で音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付ける。（知識及び技能）
- リズム、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、まとまりのある創作表現を創意工夫する。（思考力、判断力、表現力等）
- 反復、変化、対照などの構成や全体のまとまり、音の重なり方に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組む。（学びに向かう力、人間性等）

4 評価規準 ※評価略記号 知識・技能 **知技**

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知技 リズムの組み合わせ、音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴について理解するとともに、創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付け、創作で表している。	①音の重なりやリズム、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、創作表現を工夫している。	①リズムの組み合わせや音の重なり方の工夫に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。

5 題材の指導計画及び評価計画（2時間扱い）（本時2/2）

次	時配	◎ねらい　○学習内容　・学習活動 ☆〔音楽を形づくっている要素 （音符、休符、記号や用語）〕	○教師の働きかけ ・目指す児童（生徒）の姿 【視点】	評価規準 （評価方法）		
				知技	思	態
◎音符や休符の特徴と音楽の仕組みを生かしてリズムアンサンブルをつくる。				知・技 （ワークシート・発言・映像）		① （記述・発言・行動観察）
第一次	第1時	○常時活動（リズム）を行う ・2グループに分け、「交互」「同時」「ずらし」のリズムを行う。 ○「リズムゲーム」をもとに自分のリズム（4拍分）を記譜して打つ。 ・P16のリズムゲーム①からリズムを1つ作り、②に記譜し、それぞれ打つ。 ○「リズムアンサンブル」の準備をする。 ・4人1組の班を作り、自分のつくったリズムを発表する。 ・1人ずつ重ねていく練習をする。（1人→2人→3人→4人） ・班員のリズムを踏まえて、リズムの改良をする。 ・班員の改良後のリズムを使って、前半8小節のアンサンブルを考える。 ・班員がつくった構成で打つ。（3～4パターン） ☆〔リズム〕 ○考えたアンサンブルを実際に打ち、3～4パターンをギガタブで撮影して、発表ノートに貼り付ける。 ・撮影の際、①誰の案②構成を工夫した点を伝えてから演奏を始める。	○1拍分のまとまりがわかるカードを使用し、本時に繋げる。 ○行った活動について、言語化し今回の活動でどのような演奏になったのかを伝える。 ○これまでの常時活動を思い出して記譜するように伝える。 ・音符や休符の拍数や意味を理解している。 【視点1①】 ○班員と同じリズムがある生徒は兼ね合いを見てリズムを変更することを提案する。 ・4人のリズムの組み合わせや重なり方について理解し、よりよい組み合わせについて考えている。 ○各班の構成が工夫できるようにこれまでの常時活動を想起させるような声かけをする。 ○構成したアンサンブルが演奏できるよう机間巡視を行う。 ○今回撮影した3～4パターンの中から1つ選び、次回は後半を考えていくことを伝える。			
	第2時（本時）	○常時活動（リズム）を行う ・前時につくったリズムを使って反復・変化を味わう。 ○前時に録画したアンサンブルを聴き比べて、根拠を明確にしながら1パターンを選ぶ ・ワークシートの評価規準を使って聴き比べ、1パターンを選ぶ。	○反復・変化などを入れ、本時に使えるヒントを与える。 ・全員で合わせて演奏すると「迫力が生まれる」「重ねたり、ぴたりと揃ったりするよさがある」ことに気付く。 ○休符の使い方を工夫することを伝え、机間巡視でさらによくなる点を伝えていく。			

	○選んだパターンに付け加えたり、変化させたりして後半のアンサンブルをつくる ・前半のアンサンブルに加え、12小節～最大16小節までのアンサンブルをつくる。 ☆〔構成〕 ○つくったアンサンブルの意図が伝わるようにリズムアンサンブルの練習をする。できる班は「リズムチャレンジ」に進む。 ・つくった12～16小節のリズムを練習し、強弱の変化をつけられる班はつける。 ○3班ずつに分かれ、つくったアンサンブルを発表し合う。 ・構成を工夫した点を明確に伝えてから発表し、3班の中で、構成が表現に生かされている班から代表を選ぶ。 ○全体発表 ・各グループで代表になった班（3つの班）は、全体に向けて発表する。	・常時活動で気付いたことをいかして、構成の際「こうしたいから～する」という意図をもって考える。 ○強弱や速度の工夫も取り入れてよいことを伝える。			
--	---	--	--	--	--

※矢印↓は、継続的に観察することを示し、□印は全員の学習状況を記録に残す場面を示している。
※「4 評価規準」との整合性を図ること。

6 本時の指導（2／2）

（1）本時の目標

音楽で表したいイメージをもち、音符や休符の特徴、反復、対照などの構成を生かした創作表現を工夫し、リズムアンサンブルをつくる。

（2）本時の展開

学習内容 ・ 学習活動 ☆〔音楽を形づくっている要素 （音符、休符、記号や用語）〕	○教師の働きかけ・目指す生徒の姿 ◇評価規準〈評価方法〉 【視点】
1 常時活動（リズム）を行う。 ・学級を3グループに分け、「ずらし」や「休み」、「掛け合い」などの構成に繋がるリズムを打つ。 2 前回録画した映像で聴き比べをし、1パターン選ぶ。 ・発表ノートで、前時に録画した3～4パターンを、ワークシートを使って聴き比べ、根拠を明確にして班で1パターンを選ぶ。 3 本時の目標を確認する。	○今回の構成に繋がるような「1小節ずつずらす」や「掛け合い」のようなリズムを取り入れる。 ・名称と意味を理解し、一致させて考える。 ○演奏の上手・下手で決めることがないよう、ポイントを明確にして聴き比べるように伝える。 ○根拠が明確になるよう、ワークシートに〈聴く時のポイント〉を示しておく。

音楽の構成を工夫して、とっておきのリズムアンサンブルをつくろう

4 班ごとに構成を工夫してオリジナルアンサ ンブルの後半部分をつくり仕上げる。 ・構成に注目しながら班で選んだパターン (8小節)に付け加えたり、変化させたり して12～最大16小節のアンサンブルを つくる。 ☆〔構成〕	○他パターンの演奏から、生かしたい工夫があ ったら取り入れるよう声かけをする。 ・「○○を○○にしたいから△△」という思い や意図をもって構成を考えている。 まずは班での構成に関する話し合いに参加 しながら、決まったリズムを記譜し、それを 演奏できるように既習の記号などをカード などで確認しながら取り組む。 ◇音の重なりやリズム、構成を知覚し、それ らの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ ながら、知覚したことと感受したことと の関わりについて考え、創作表現を工夫し ている。 (思考・判断・表現) 〈ワークシート・発言〉
5 聴いている相手に伝えることを意識して、 リズムアンサンブルの練習をする ・班でつくった12～16小節のアンサ ンブルを練習する。 ・練習の中で、構成の表現が十分にでき ようになったら、強弱に変化をつけたり、組 み合わせを変更したりする。 6 3班ずつに分かれ、自分の班のアンサ ンブルを発表し合う。 ・構成を工夫した点を伝えてから発表し、気 付いたことや考えたことをワークシートに メモする。 ・3班の中で、構成が表現に生かされてい る班の理由を明確にして1つ選ぶ。 7 全体発表 ・各グループの代表3班は、全体の前で構成 の工夫を伝えてから演奏する。 8 まとめ ・学習評価表に本時の感想・気付いた点を記 入する。	○構成の表現が十分な班には強弱を工夫してよ いことを伝える。 ・音で鳴らして確認をしながら試行錯誤し、 「同時」「掛け合い」「ずらし」等の既習事 項を使って構成を考えている。 ○他の班の演奏を聴いて工夫を見つけられるよ う声かけをする。 ○発表前に伝えられた構成の工夫についてどう であったか感想を述べるよう助言する。